

## 第五章

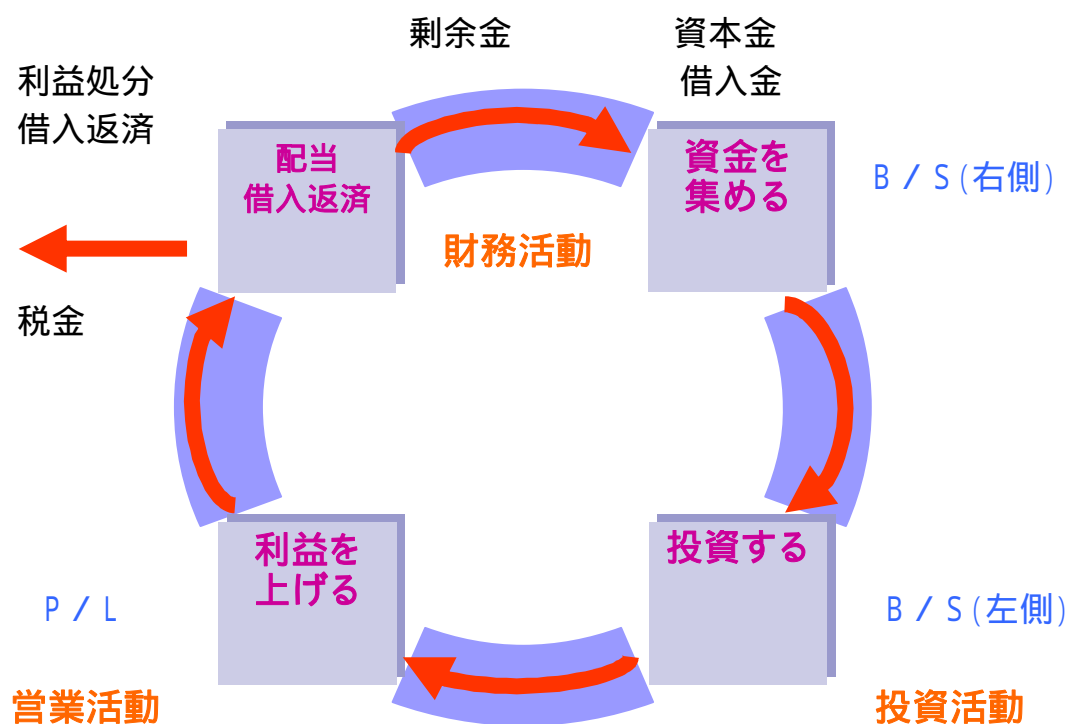
### 損益計算書(P / L)の見方



さて、これまでは決算書の概要や何のために決算書を作成するのか、あるいは身近な家計や個人事業でも会計の知識やセンスが役に立つ、という話題にも触れてきました。

ここからは、いよいよ**決算書を読むための知識**について、詳しくみていきたいと思います。

その前に、もう一度会社の基本的な活動についておさらいしておきましょう。企業活動は、**財務活動**、**投資活動**、**営業活動**の3つに分かれています。簡単な図にすると以下のようなイメージになります。



### 損益計算書とは？

この章では、決算書のうち「**損益計算書(P/L)**」の見方について解説していきますが、損益計算書は企業活動のうち商品やサービスなどを販売して利益をあげる基本的な活動について表したものです。

もう少し、わかりやすく定義すると、  
損益計算書(P/L)とは、**ある一定期間の損益(利益または損失)の状況**を表した  
決算書類です。

ある一定期間とありますが、**決算期と対応して作成**されます。  
上場企業やその子会社など月次決算制度を採り入れている会社は、毎月「当月分の  
損益計算書」を作成したり、四半期ごとの決算発表のために第一四半期(4 - 6月)の  
3カ月分を累計した損益計算書を作成したりします。

通常は、一般的には年度決算として最低でも年1回のペースで、決算期(会計年度)  
1年間の損益計算書を作成しなければなりません。

ですから、損益計算書を見ると、作成した会社が  
その**会計年度1年間に、いくら儲かったのか？あるいは損したのか？**  
がわかります。

**会社の経営成績、業績をあらわす通信簿**のようなものですね。

損益計算書の構造を説明すると、次のようになります。  
売上高から売上に対応する原価や一定期間にかかった営業費用(販売費・管理費)  
を差し引いて、さらに本業以外の収益、費用を足したり引いたりして、黒字であれば法  
人税等の税金を引いた最終的な残りを「**当期純利益**」といいます。

これを「**最終損益**」とっていますが、  
要は**最終的に利益が出たのか？損失が出たのか？**  
**最終的に黒字なのか？赤字なのか？**  
ということです。

損益計算書の考え方は、極めてシンプルで

**売上高(収益) - 費用 = 利益**

この方法で、最終損益を計算するということです。

損益計算書では、**いったいどこで儲けて、どこで損しているのか？**  
その原因を分析できるように、最終損益に至るまでの損益を5段階に分けて表示して  
います。

損益計算書の基本構造を図で表すと、以下のような構造になっています。

売上高	100
売上原価	70
売上総利益(=粗利)	30
販売費及び一般管理費	15
営業利益	15
営業外費用(金融費用など)	5
経常利益	10
特別損失	5
税引前当期純利益	5
法人税等	2
当期純利益	3

これから5段階の損益をそれぞれ説明しますが、その前に知っておかなければならないことがあります。

損益計算書では、3つの収益と5つの費用に大きく分類できます。

### 3つの収益

1. **売上高**: 商品の販売やサービス提供などによる収入
2. **営業外収益**: 本業以外の収入。受取利息、受取配当金、雑収入など
3. **特別利益**: 臨時、特殊な利益。設備の売却益など

### 費用の5分類

1. **売上原価**: 販売した商品の原価
2. **販売費および一般管理費**: 人件費、広告宣伝費、賃借料など  
営業活動や管理部門でかかった費用
3. **営業外費用**: 借入利息、株式の評価損など
4. **特別損失**: 臨時の特殊な費用。設備の売却損、リストラ費用など
5. **法人税等**: 法人税、住民税、事業税、過年度分や調整額など